

歴史としての「ユーゴスラヴィア」

— 建国100年の地点から振り返る

日程：2018年12月1日(土) 13:00～18:30

会場：立教大学 池袋キャンパス5号館5223教室

主催：東欧史研究会（お問い合わせ先 tououshi@gmail.com）

共催：科研費基盤(A)「1918-19年像の再構築—継続と変容—」

第一セッション (13:10～15:10)

帝国の遺産と記憶

中澤拓哉(東京大学・院)

「モンテネグロ併合とユーゴスラヴィア建国
—パリ講和会議前後の外交とプロパガンダ(1918-1921)」

村上 亮(福山大学)

「ユーゴスラヴィア建国の正統性をめぐって
—パリ講和会議における戦争責任問題とその余波」

コメント：池田嘉郎(東京大学)

第二セッション (15:20～17:20)

「民族問題」のフレーム

門間卓也(学習院女子大学)

「ウスタシャ運動と「新しい人間」の創造
—「クロアチア独立国」の教育現場における民族統治」

鈴木健太(東京外国語大学)

「1989年の社会主義ユーゴスラヴィア—大衆的政治運動と共和国間対立」

コメント：佐藤成基(法政大学)

全体討論 (17:30～18:30)

ディスカッサント：大津留厚(神戸大学)、柴宜弘(城西国際大学)